

ベネチア大学（イタリア）

出国した日から今日まではあっという間で、時間を有意義に使わないといけないと日々感じています。

物価が高いことやコミュニケーションの難しさなど、日本のようにうまくいかないことも多いですが、それも学びだと思って前向きにとらえることが出来ています。

ヨーロッパ旅行を始めたことも良い経験だったと感じています。留学中でしかできないことに積極的に取り組むことが出来ているように感じています。学習や私生活を支えてくれる現地の大学生には非常に感謝しています。

次の一か月では、日常的に使える英会話表現を増やすことと、イタリア語の基礎を固めることを目標に勉強に励みたいと思います。



フライブルク大学（ドイツ）

ドイツに来て約一か月が経過しました。景色、言語、生活様式、すべてが日本と全く違うので、とても刺激的な一か月でした。まだドイツに来て一か月とは思えないほど多くの新しい学びがあり、留学に来てよかったと感じる毎日です。

言語の壁を感じ、悔しい思いをする場面はよくありますが、それも自分の成長につながる貴重な体験だと思うようにして、できるだけ前向きでいるように心がけました。イベントや友人の誘いには積極的に行って、まだドイツに来て一か月ですがたくさん楽しい思い出ができました。

ド・モントフォート大学（イギリス）

私のイメージとは異なり、会う人全員が優しい。自国の料理を振舞ってくれたり、私の消極的な姿勢を心配して「自信をもって喋ろう」と声をかけてくれたり、人そのものに感動している。

ひょっとすると、これを読んでいるあなたも英語力に自信がなく、最初は消極的になってしまうかもしれない。ぜひ、根拠のない自信をもってコンフォートゾーンを抜け出して欲しい。寂しくなったり、つらかったりしたら電話をして慰めてもらうもよし。

私は、話せる場面とそうでない場面があり、何度も自信が上がったり下がったりして、恥ずかしい思いをすることもある。ただ、君が思っているほど周りは気にしてないし、英語が拙くても皆から慕われる人もいる。

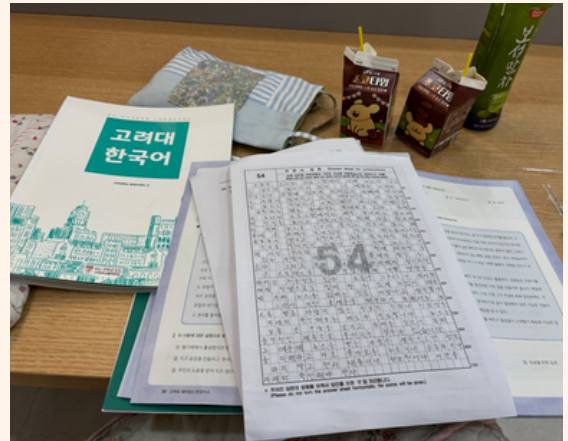
ベストタイミングは一生来ない。「英語ができるようになったら」では遅い。今この瞬間に一步踏み出すことを意識してほしい。

仁川大学校（韓国）

10月末に韓国語の中間試験がありました。中間試験ではトピックIIの中級レベルに合わせた文法や読解問題と筆記問題が中心に出題されます。

図書館に行ったり、韓国の友達と話す機会を意識的に作ったりしながら一生懸命勉強した結果、満点を取ることができました！努力の成果が結果に出て本当に嬉しかったです！

試験前は不安な気持ちも大きかったですが、友達と一緒に勉強した時間や夜遅くに寒さに震えながら家に帰った日も全ていい思い出です。



ウィーン大学（オーストリア）

毎日講義の予習復習に追われていますが、学びたいことを思い切り学んでいる感覚があり充実しています。講義は事前にその概要を把握して用語の意味を理解していないとついて行けないため、積極的に図書館に籠るようにして勉強しています。

特に、講義の一つは学部で一番労力が必要な難しい講義だという噂があるため、試験に備えて計画的に勉強していきたいです。講義中は、先生が全体に質問を投げかけたときは、自分が答えるという意識をもって臨んでいます。

サザン・メイン大学（アメリカ）

現在、私は「幸福の経済学」という授業を履修しています。この名前だけだと怪しく聞こえてしまうのですが、「ウェルビーイングな生活を送るためにはどうすべきか？」という問いをテーマに、行動経済学や心理学など、様々な学術分野の視点から考察・議論を行う授業です。10月はこの授業の課題やテストに最も時間を費やし悩まされましたが、同時に最も興味深く感じた講義でもありました。その課題の中でも特に印象に残っているものをご紹介します。

課題名は“MAKE A TREE FRIEND”で、文字通り、自分だけの「友達となる木」を見つけるというものでした。当初は「なぜ経済学の授業でこのようなスピリチュアルな課題を？」と戸惑いましたが、実際に取り組んでみると予想外に面白く、課題期間が終了した現在も継続しようかと考えています。

内容としては、直感的に気に入った木を一本見つけ、毎週同じ時間にその木を訪れ、木に触れながら深呼吸をし、その感想と木の変化をレポートにまとめ、クラスで共有するという課題でした。この課題を通して教授が伝え、証明したかったのは、人のウェルビーイングにおいて、人との関わりと自然との関わりを両立することの大切さだったのだと思われます。論文を読むだけでなく、このように「身をもって体験させる」形式の授業は日本ではなかなか経験できず、非常に興味深いと感じました。